

- 43 -

第 17 回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナーの議事録
Proceedings of 17th Seminar on Acari-Diseases Interface 2009 in Fukui
SADI ホームページ [<http://sadi.workarea.jp/>]

第 17 回集会 (越の国大会) は以下のとおり開催された。

1. 開催要領

ホスト：高田伸弘 (福井大学医学部)

期 日：2009 年 6 月 12 (金) ～6 月 14 日 (日) の 3 日間, 任意の時間帯の参加可能

会 場：多田記念大野有終会館 (大野市天神町 1 番 19 号 Tel 0779-65-8766)

費 用：参加費 1,000 円, 疫学ツアー 1,200 円, 懇親会 4,000 円

2. プログラム

1 日目 6 月 12 日 (金)

15:10 ホスト開会の挨拶

「大東亜ダニ病地図, 福井への回帰」 / 大会オリエンテーション

15:20 記念講演 司会 高岡正敏

「佐々学先生とダニ」 上村 清 (前富山医科薬科大学) * 関係パネルの展示

15:40 WS 「医ダニ類の防除防圧, フィールドへの展開」

高岡正敏：ダニ類防除, 家屋内外の場合

野村美治：ダニ類の化学的防除

角坂照貴：ツツガムシ忌避剤について

市川康明：ペットのマダニ駆除

橋本知幸：屋外ベクターに対する総合防除の現状と対策

17:00 休憩

17:10 WS 「運び屋を調べる」

小原真弓：富山県におけるマダニ類調査

矢野泰弘：新型走査電顕画像によるマダニ幼若虫の有用分類の試行

本田俊郎：鹿児島県の野鼠保有病原体調査 (2008 年度)

磯貝恵美子：マダニディフェンシンのライム病ボレリア及び中腸由来細菌に対する抗菌
活性

藤田博己 / 安藤秀二：北日本にみる新型都市型紅斑熱のベクター

18:30 学振科学研究費課題の合同班会議 (代表：高田 / 岩崎)

厚生科学研究費課題の打ち合わせ会科研 (代表：岸本)

2 日目 6 月 13 日 (土)

8:00 バスにて荒島岳山麓～恐竜博物館～平泉寺日本の道とダニ類採集

13:00 歓迎講演 司会 高田伸弘

「福井大学医学部と感染症」 上田孝典 (福井大学医学部長)

13:20 WS 「高齢化と感染症」

岩崎博道：高齢化に伴う易感染性の総論

和田康夫：老人施設における疥癬集団発生の 1 例

大滝倫子：高齢者をめぐる疥癬の感染経路さまざま

田原研司／山本正悟：リケッチア症例にみる高齢化—島根県・宮崎県の場合—

森田裕司：和歌山県古座川地区の日本紅斑熱患者にみる高齢化

田畑好基：三重県伊勢志摩地方の日本紅斑熱発生状況

15:00 休憩

15:10 WS「若手研究者が語る（1）」

中山恵介：オリエンチア・ツツガムシ株間における比較ゲノム解析から明らかになったこと

安藤匡子：マウスモデルにおける急性Q熱の発症要因の解析

高野 愛：ボレリアとマダニの共種分化の可能性

白藤梨可：フタトゲチマダニのオートファジー関連遺伝子の単離同定と発現解析

（関連発言）安藤秀二／中山恵介：リケッチア，オリエンチアのバイオリソース整備に関するお願い

16:50 休憩

17:00 WS「感染症法と保険診療」

馬原文彦／岩崎博道：リケッチア症診療の場合

馬場俊一：ライム病診療の場合

藤田博己：野兔病診療の場合

大滝倫子：疥癬診療の場合

（関連発言）児玉哲也，高橋 洋，本田俊郎

18:30 懇親会

3日目 6月14日（日）

8:30 WS「若手研究者が語る（2）」

井上 快：小型哺乳類を自然宿主とする病原性 *Bartonella* 属菌の生態に関する研究

中尾 亮：LAMP法による *Ehrlichia ruminantium* の検出

玉熊桂子：日本紅斑熱とツツガムシ病のISH法の検討

坂部茂俊：山田赤十字病院で経験した日本紅斑熱の臨床経過

廣岡亜矢：新たな多発地として天草地方の日本紅斑熱について<ポスター>

9:50 休憩

10:00 WS「マダニとスピロヘータ」

増澤俊幸：フィリピンにおけるレプトスピラ症の現状

川端寛樹：広域分布型ボレリアと地域限定型ボレリアを規定する生態学的因子の探索
付 海鳥寄生性ダニ *Carios sawaii* から見いだされた回帰熱ボレリアの同定<ポスター>

10:30 WS「マダニ媒介感染症アラカルト」

内島祥由紀：トルコの *Ixodes ricinus* からの *Anaplasma phagocytophilum* の検出

川森文彦：静岡県のマダニから検出された紅斑熱群リケッチア DNA の解析

森田裕司：和歌山県においてマダニ媒介が推定された野兔病

杉本千尋：タイレリア原虫の比較ゲノム解析<ポスター>

及川陽三郎：ネズミバベシア原虫，ヒト感染神戸型の分布相

11:40 閉会 事務連絡（SADI組織委員会）

3. 登録参加者名簿（2009年6月上旬現在の登録簿による；以下73名に検討中の方

が数名加わり、また県内医師会や衛生行政からも随時の日程で参加があった)

阿戸 学	国立感染症研究所
安藤匡子	東京農工大学
安藤秀二	国立感染症研究所
馬場俊一	ばば皮ふ科
藤田博己	大原研究所
橋本知幸	日本環境衛生センター
廣岡亜矢	熊本労災病院
本田俊郎	鹿児島県立大島病院
猪熊 壽	帯広畜産大学
岩崎博道	福井大学
石畝 史	福井衛生環境研究センター
磯貝恵美子	北海道医療大学
井上 快	日本大学
市丸奈穂子	福井大学
市川康明	メリアル・ジャパン
川森文彦	静岡県環境研究所
壁谷英則	日本大学
角坂照貴	愛知医科大学
鍵和田哲史	バイエル薬品
川端寛樹	国立感染症研究所
上村 清	丸三製薬 (前富山医科薬科大学)
金子絵厘	バイエル薬品
岸本寿男	岡山県環境保健センター
児玉哲也	こだまクリニック
増澤俊幸	千葉科学大学
馬原文彦	馬原医院
馬原けい子	馬原医院
町田裕之	バイエル薬品
森田剛史	厚生労働省健康局
森田裕司	国保明神診療所
森田貴久子	国保明神診療所
森田裕子	国保明神診療所
守山義明	丸三製薬
水口永久	メリアル・ジャパン
永田暁洋	福井衛生環境研究センター
中山恵介	宮崎大学
中島謙治	福井大学
中村秀一郎	福井大学
中尾 亮	北海道大学
野村美治	アース製薬
小河正雄	大分県衛生環境研究センター

小河明美	大分県衛生環境研究センター
及川陽三郎	金沢医科大学
大滝哲也	元金沢大学
大滝倫子	九段坂病院
小原真弓	富山県衛生研究所
岡本 央	住友化学
坂部茂俊	山田赤十字病院
白藤梨可	鹿児島大学
島津幸枝	広島県保健環境センター
重松俊馬	メリアル・ジャパン
関 健一	福井大学
杉本千尋	北海道大学
田原研司	島根県保健環境研究所
高野 愛	国立感染症研究所, 岐阜大学
高岡正敏	ペストマネジメントラボ
高橋 洋	坂総合病院
高田伸弘	福井大学
高田由美子	福井大学
玉熊桂子	藤田保健衛生大学
玉置幸子	玉置病院
田畑好基	伊勢保険福祉事務所
千保 聡	住友化学
堤 寛	藤田保健衛生大学
内島祥由紀	千葉科学大学
内山恒夫	徳島大学
上田孝典	福井大学
和田康夫	赤穂市市民病院
山本正悟	宮崎県衛生環境研究所
柳原保武	前静岡県立大学
山川 秀	山川医院
矢野泰弘	福井大学
吉田真一	九州大学

4. 次回開催の予告

次回開催の予告

ホスト：多村 憲（前新潟薬科大学） 支援：SADI組織委員会

期 日：2010年6月4～6日または11～13日（いずれも金、土、日）

ご希望の日程があれば一応年末までにお知らせ下さい。総合的に判断させていただきます（福井大・医 高田、市丸宛）。

会 場：トキ交流会館（新潟県佐渡市）

編集や事務連絡などは下記まで

・高田伸弘（福井大学医学部）

〒910 - 1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

Tel 0776-61-8330 (直)

Fax 0776-61-8330 (直)

e-mail acari アットマーク u-fukui.ac.jp

- ・藤田博己 (大原研究所)

〒960-0195 福島県福島市鎌田字中江 33

Tel 024-554-2001(内 235)

Fax 024-554-6879

e-mail fujitah7knu アットマーク y8.dion.ne.jp

SADI 組織委員会

医ダニ学担当

- ・高田伸弘, 矢野泰弘 (福井大学医学部)
- ・藤田博己 (大原研究所)

臨床医学担当

- ・馬原文彦 (馬原医院)
〒779-1510 徳島県阿南市新野町信里町 6-1
Tel. 0884-36-3339 Fax. 0884-36-3641
- ・大滝倫子 (九段坂病院)
〒102-0074 千代田区九段坂南 2-1-39
Tel. 03-3262-9191 Fax.03-3264-5397

微生物学担当

- ・岸本寿男 (岡山県環境保健センター)
〒701-0298 岡山市南区内尾 739-1
Tel.086-298-2681 Fax. 086-298-2088
- ・吉田芳哉 (株式会社シマ研究所)
〒174-0063 東京都板橋区前野町 3-6-10
Tel. 03-3966-2283

後 記

福井県を中心にした北陸地方、越の国で大きな豪族が権勢をふるう歴史の中で、大和朝廷から天皇への即位を求められたのが継体 (けいたい) 大王でして、地に落ちかけていた大和中央集権を新生させたのだと聞きます。今では小さなケータイが大王のごとく振舞い、こんな親父ギャグではすまないほど、それ無しでは明けぬ若い層や犯罪絡みのことなど問題が多いようです、が、そんなケータイを3日で10年分ほども使ったのがSADI 越の国大会の私でして、私のケータイは日頃、玄関の下駄箱の上やカバンの中、果ては主が着ているにかかわらず背広のポケットの中で空しく呼ぶことが多かったのですが、皆様のお世話にやっきになっていた会期中はよく働いてもらいました。私のご案内の不注意から、大滝倫子先生が疫学ツアー途上の川の土手でつまづかれ手指を骨折されましたが、ツアーはそのまま我国唯一最高の県立恐竜博物館へ入りましたので、病院へ向かわれた先生の安否は絶えずケータイで訊きました。

会場の名前が多田記念大野有終会館と申しまして、有終の美につながる名称は私にはいささか面映ゆいものでしたが、多田を冠されたのは、この建物を寄付した一代のタク

シー王である多田翁ゆえんでした。隣の勝山市に我国最大の大仏殿と五重塔を建立した方でしたが、亡くなられた後に倒産したため大仏殿は再三競売にふされ、未だに買い手が見つからないとか、100億円を切った今がお買い得のようです。

話題がやや枝葉末節に広がってしまいましたが、セミナー自体は、全演題をワークショップに区分することで議論を尽くせるように初の試みで工夫いたしました。17回大会をもじって「17歳の集い、新世代の躍動」と銘打ちました結果、中堅研究者から紹介いただいた若い研究者の方々の先進的な講演の数々、またそれに負けじとベテラン研究者が肩肘張ってのご講演など、極めて多彩な質疑が展開いたしました。注目は、感染症法の中で臨床対応の実際が損なわれている点を、出席いただいた厚労省の方へ喚起を促したことでした。そんなこんなで3日間はあっという間に過ぎ、朝市や湧水のトゲウオなど探索できた方は少なかったのではないかと惜しまれますが、懇親会では地産地消の素朴な味やお酒を堪能いただけましたようで、何よりでした。

以上、大の字と王の字がよく出てきます越の国のお話でした。来年は、*Nipponia nippon*と金山が待つ島でお会いできますことを楽しみに。